

## 【全体】

- よく検討された内容で、取り組みも先進的である。
- 今は議論ではなく、個別論でのアクションが求められている。本とりまとめ結果が具体的にどう活かされるのかフィードバックを期待している。
- 絵に描いた餅になったらしょうがない。成長戦略会議での議論を通じて、個別のプロジェクトを動かしていく仕組みとして、検討結果を浸透させたい。

## 【「1. 背景」に関する意見】

- ベンチャーだけでなく、中小企業にも高いポテンシャルを持つ人がいるにもかかわらず、国プロへの参加やそのための情報を入手することが難しい状況。焦点を当てて欲しい。
- 破壊的イノベ、持続的イノベは二項対立的ではない。持続的イノベは小さな破壊的イノベの積み重ねで、重要なもの。また小さなイノベを支えてきた技術者が組織の枠を超えて枠組みへ参加、活躍できれば面白い。

## 【「2. 現状の課題」に関する意見】

- 新宿区の外国人割合は10%超。彼らに対して創業支援を行い、大久保は観光地化するところまで進んでいる。シリコンバレーでも移民が活躍しており、優秀な外国人を活用することは重要である。自前主義の観点に加えて欲しい。
- 日本の教育現場ではオールラウンドプレイヤーを育てるのが基本。欧米では中等教育からスペシャリスト育成をしている。この違いを認識し、人材育成の在り方を見直す必要があるのではないか。
- 若い人材に起業家精神を持たせるには、彼らにビジネスの現場を見せる必要がある。企業が教育の現場に出て、事業の実態を見せていくことも必要ではないか。
- 大学といっても日米では全然違う。日本で修士をとっても、米国に1年ただけで起業家精神に溢れ、卒業後ベンチャーを興すんだと思うようになる。日本はクリエイティブ、イノベータータイプだがアントレプレナーシップが薄い。日本の大学ではそういう講座もないし、学生がそういう空気に触れる機会がないのではないか。

# 情報通信政策部会(第41回)で示された意見(その2)

## 【「3. 解決の方向性」に関する意見】

- 独創的な人材をサポートする体制を作り、自由に活躍できる環境を用意することが必要ではないか。今回の報告書で、独創的な人材を大切にするとあってもらうのはバネになる。
- 独創的な人材に活躍して貰うことは非常に重要である。クリエイター等の業種にはそういった人材が身の回りに集まる傾向があるが、それ以外の分野においては独創的な人材同士をマッチングさせる機会づくりも必要となるのではないか。
- 飛び抜けて優れた環境のクリエイターへの開放は重要である。スマートテレビにおけるHTML5の活用についても、そういう環境の中に位置付けて欲しい。
- ハードだけでなくソフトも含めた環境を構築しないと、言うは易く行うは難しになりがち。
- 言語圏の観点から、ビジネスをグローバルにコーディネートできる人材が少ないのではないか。
- 楽しいものにしかユーザーはお金を出さない。また、そういった楽しいものを、オープンサイエンスの様に、みんなで考えることが日本人は得意でもある。一人の天才ではなく沢山の人、シニアがみんなで考える仕組みを国で用意して欲しい。

## 【「4. 国による具体的な取組方策」に関する意見】

- コンセプト実証のための「SCOPEフェーズ3」の創設は高く評価できる。先般、3年ものをフェーズ1の1年、フェーズ2の2年に分割しており、今回を機会に、どのフェーズにどれだけの期間と資金を与えるのか等、詳細設計をして欲しい。
- シリコンバレーを例に挙げると、様々な人種がビジネスに参加しており、言語圏のバランスという視点も重要ではないか。例えば、インドネシア語圏なら2億人の市場があるが、日本語に限ると小さくなるということ。日本において海外のアイデアを競争的資金等を通じてインキュベートできれば面白いのではないか。

# 情報通信政策部会(第41回)で示された意見(その3)

## 【「5. 今後取り組むべき技術分野」に関する意見】

○第5章のくり方について、課題解決はマイナスをゼロにするもの。一方、基盤技術はこれまで日本が得意としてきた領域であり、プラス(+)を++、+++にする取り組みである。5.1.2(基盤)は強いところをもっと強くするというくりが良いのではないか。

## 【「6. パイロットプロジェクト」に関する意見】

○パイロットプロジェクトの企画立案や実施に際して、外国の例も踏まえながら、PDCAサイクルを適用するといった仕組みについても言及すべきではないか。

○防災に関するスマートコミュニティ作りは喫緊の課題である。既存インフラをどうリノベーションするかも考えないと上手くいかないのではないか

○既存インフラのリソース活用にあたっては、規制緩和が進みつつある中、構造的な見直しについては未だこれからの状況。既得権益をどうしていくかが重要な問題になるのではないか。

○ビッグデータは流行り言葉であり、ひとくりにした表現は適切ではない。分野によってデータを扱うアルゴリズムは全く異なるので、もっとブレイクダウンして具体的なことを検討する時期に入っているのではないか。

○ビッグデータについては、街作りのプロジェクトでも共通のプラットフォーム作りをしようとしており、ここでも具体的な活用方法が必要ではないか。

○オープンデータの扱いについては、単にデータを集めてきて既存の分析ソフトを回すだけでは意味がない。どういう仮説に基づいて、何を分析しようとするかが重要。当然、そのためのアルゴリズムも個別に違ってくる。これまでにないガンの治療方法やシェールガスの効率的な発掘方法の発見など、新しい使い方、最先端の分野に誘導するように書いて欲しい。

○共通的な環境は重要。最近では、無線を重視する傾向があるが、有線の活用が本当は重要である。日本の世界に冠たる技術は光通信と高精細映像。この2つを大事にして欲しい。